

表紙に使用している画像は、小川和紙の「揉紙」です。できあがった和紙を水に浸して揉み、広げて乾燥させることにより、立体感のある紙に仕上がります。

特集
視察に行きました
調査研究します！
3 常任委員会

P.2

議員のつばやきにも注目
一般質問に
10人が登壇

P.6



みんな一緒にヘンな顔！
(八和田保育園)

No.80
おがき
2016 夏
6 月 定 例 会
埼玉県小川町議会



わたしのひとコト「だから小川が好き」

P.13

高橋修子さん
子どもたちの
声がたくさん
聞こえる町で
あってほしい



鈴木理枝さん
子育て世代に対
し、さまざまな
助成があり、助
かっています



東中体育祭
で聞いた
18人の声

P.14

各ページ下にも
町のみんなから
ひとコト！



議会では委員会条例に基づいて、総務・経済建設・厚生文教の決算（9月）の審査をはじめ、それぞれが所管する事務の調査地方創生に向けて、各常任委員会の視点から諸課題に取り組み

3常任委員会を設置しています。議員はいずれかの委員会に所属し、予算（3月）を行なっています。今回は、改めて常任委員会の役割や活動をクローズアップします。

さらなる防災・減災への取り組みを



行政区単位での自主防災組織率は64%。自助・共助の強化で激甚化する自然災害等への備えを。

住民参画・地域コミュニティの活性化を



自治に参加する具体的な仕組みづくりと、時代や地域性に合ったコミュニティの再構築に向けた取り組みを。

総務常任委員会では

休耕地の解消につながる農業支援を



可能性を秘めた不耕作農地の再活用を。また、就農支援の充実を。

観光客の増加を



細川紙がユネスコ無形文化遺産に登録されて2年。微増する来町者に対して「おもてなし」の充実を。また、周辺の環境整備で、にぎわい創出を。

経済建設常任委員会では

成果の見える教育を



夢がかなう素地をつくる教育。また、お金のかからない子育て環境・仕組みづくりを。

子どもがたくさんいる町に



人口ビジョンでは、4年後には3000人、14年後には7500人が減少と予測（平成26年、町の出生率は0.92）。既婚者増、結婚・出産・子育ての一貫した相談体制の充実を。

厚生文教常任委員会では

今年度取り組む調査研究の課題

視察をふまえての委員会調査報告

調査テーマ

地域の特色を生かした総合的なまちづくり

静岡県静岡市・長泉町・小山町を視察
（3常任委員会での合同視察）

平成27年11月16日～17日



静岡市このはなアリーナ（経済建設常任委員会） 地場産材を使った集成材の活用

草薙総合運動場リニューアルの一環で改築された体育館。コンセプトは「木に包まれる体育館」で、日本三大人工美林である天竜杉を贅沢に使用。森林資源の活用に向けた県産材の需要と供給の一体的な創造に取り組み、木材の増産を目指している。



長泉町（厚生文教常任委員会） ママラッチの立ち上げ経緯と活動状況

子育て支援の一環とするタウンセールス事業で、子育て中のママライターが町のさまざまな情報を発信。事業を通じて、子育て情報の共有や住民交流の促進・商業や観光のPRとして、町の活性化につながっている。女性独自の視点・観点からの発信は効果大。

小山町（総務常任委員会） 内陸フロンティアの取り組み

静岡県が推進する「ふじのくに防災・減災、地域成長モデル総合特区」の指定を受けた先導的モデル。発災が懸念されている南海トラフ地震等の有事に備えて、現在は沿岸部に集中するさまざまな機能を内陸部に分散し、防災・減災と地域の成長を両立する取り組み。

それぞれ事業展開はさまざまであるが、苦慮しながらも地域の特性に即した効果的な取り組みの状況が確認できた。内容は多岐にわたり違いがあるものの、地域の特色を生かすために、常に前向きな探究心と推進力を備え、計画を実現に向けた姿勢があらわれていた。先進地の取り組みを十分精査し、当町においても、他に類を見ない特色あるまちづくりを希望するものである。

平成28年度補正予算に関する質疑

Q マイナンバーカードの発行遅延に伴って、新たに臨時職員を雇用すること。主に遅延の原因・責任は、国や作成を担当する第三セクターにあると考えた場合、雇用に要する費用を町単独費で賄うことは適当か。

A 現時点で、国からの交付措置はありませんが、今後、補助率等の交付基準が示され、歳入がされると見込んでいます。

Q 熊本地震被災地支援のための予算が示されたが、詳細・動向は。

A おおむね2週間の滞在期間を見込んだ職員2名分の旅費・宿泊費となります。要請があった場合、迅速に対応するための予算計上です。

Q 昨年度から持ち越しているため池の耐震診断だが、財源に見込んだ国・県の補助金額に変更が見られる。事業の計画や進捗に影響はあるか。

A 決壊時の危険度によって、国・県からそれぞれ補助の採択を受けました。当初は9カ所を見込んでいましたが、結果的に5カ所となりました。残りについては、来年度、引き続き国・県の補助を受け実施していきたいと考えています。また、補助がかなわなかった場合は、町単独費での対応も視野に入れています。

Q 地域公共交通の確保・維持・改善に係る国の補助金867万円が得られなかったとのことだ

条例その他に関する質疑

Q 税条例の改正により影響を受ける世帯はあるのか。

A 経済産業省の補助を受け太陽光発電10キロワット以上を設

置した民間・青色申告している自己消費型の施設で、一般の世帯はありません。

Q 先の3月議会で町長と教育長の給与が減額された。さらに、

今回は副町長の給与減額が示されたが、背景は。
A 改めて厳しい財政状況の折り、副町長から「3役そろって町財政健全化に取り組みたい」

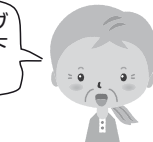
が、理由は。また、今後の進捗に心配を覚えるが。
A 国に確認をしたところ、交通事業に対する補助の申請は全国的に多く、その中でも事業費用が多くなる自治体が優先さ

れるとのことでした。今回は補助が得られませんでしたので、町単独費で進める予定です。
また、計画では来年1月から始まる実証実験を経て、平成30年度から本格的な事業の実施を予定しているので、適宜、補助の申請を行なっていく予定です。

今年3月に策定された「小川町地域公共交通網形成計画」では、既存バス路線の維持・充実やデマンド型交通の導入を柱に、空白地域や交通弱者の対策に取り組むとしています。



Mini Column
オガワマチのこと
ギカイのこと
一緒に見よう、考えよう
「小川のどこが好き？」



(K・Kさん・65歳)

八幡神社の裏のグラウンドから北へ下る青葉の中の山道。



(H・Kさん・84歳)

官ノ倉から見た小川町の全景。



(M・Sちゃん・12歳)

下里4区のセンターの公園。



平成26年度視察研修

文化財保護委員会は、教育委員会の諮問に応じて、文化財の指定及び保存活用に関する重要事項について調査審議します。

との強い意志が示されました。
Q 法人税割の減収に伴い、国の補てん分として地方交付税が充てられるとのことだが。
A 法人税割が9・7%から6%となり、平成27年度ベースで減収分を算出すると4400万円となります。法人税収は弱いので、減収分を上回る交付税措置がされると予想します。
Q 現行医療機関からの医薬品に税の控除があるが、薬局での購入分についても受けられるのか。
A 医薬品の一部ですが、平成29年1月から平成33年12月の購入分までが対象で実施されます。

Q 「薬学部の奨学金を医学部や歯学部同様に拡大し、施行日を本年4月1日までさかのぼり実施する」とのことだが、その周知方法は。
A 8月の町広報に掲載予定です。9月中旬に申請し、審査会を経て10月下旬に交付の予定です。
Q 文化財保護委員の補充について順位などはあるのか。
A 補充委員の順位はなく、分野ごとの専門家をバランスよく選任し、さらに退任による補欠任期を残任期間とすることとしました。

審議した議案と議員の賛否をお知らせします

議 案 名	議 員 名	審 議 結 果																
			笠原 武	井口 亮一	笠原 規弘	田中 照子	高瀬 勉	山口 勝士	高橋さゆり	松本 修三	金子 美登	松葉 幸雄	大戸 久一	島崎 隆夫	柴崎 勝	宮澤 幹雄	戸口 勝	根岸 成美
専決処分1の承認を求めることについて（税条例等の一部を改正する条例制定について）		承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
専決処分の承認を求めることについて（都市計画税条例の一部を改正する条例制定について）		承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
町長及び教育長の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例制定		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
税条例等の一部を改正する条例制定		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
奨学資金貸付基金条例の一部を改正する条例制定		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
文化財保護条例の一部を改正する条例制定		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成28年度一般会計補正予算（第1号）		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—

※（○は賛成、×は反対、欠は欠席）議長は賛否同数の場合のみ採決に参加します

解説 専決処分1

本来は議会の議決・決定を経なければならない事柄について、地方公共団体の長が地方自治法の規定に基づき、みずから処理すること。

一般質問とは、町の施策等について、議員が町に考えや意見を求めるものです。議会だよりでは、このやりとりを要約して報告します。

「何ごとも、且」
「ろの備えが大切
ですね。」



たかせ つとむ
高瀬 勉が問う

熊本地震に見た 縮災²の重要性は

Q 熊本地震を受けて、地域防災計画の見直しや、新たに対応が必要となった事案はあるか。

A 総務課長 法令や上位計画が改正・修正等された場合は、地域防災計画の修正も必要になると考えています。また、被害が生じた際、建物の被害認定調査や罹災証明の円滑な交付体制の整備・避難所でのプライベート空間の確保等が課題と捉えています。

Q 改めて、町主催の各種防災訓練は必須と感じたが、開催は。

A 総務課長 まずは、役場職員向けの研修として、避難所開設訓練等の実施を考えています。また、今年度は「公助」の充実を図るため、備蓄物資の予算を大幅に増額しました。

Q 防災に特化した専門の課・グループを設置する等の考えは。

A 総務課長 防災対策の一環として今後予定している平成29年度に向けた課・組織について、所管課でヒアリングを実施し、専門の課・グループの設置も検討します。

その他の質問

・新年度のスタートに見る町の展望は
・ひとり親家庭への支援強化は



毎年、前高谷地区では充実した防災訓練が実施されます。

「健康で文化的な
最低限の生活を
営む権利」とは。



あさはら たけし
笠原 武が問う

生活を保障する ための援助を

Q 「母子2人家族。母はパートで薄給。高校に入った息子の入学経費5万円。野球部に入りたかったが、費用がかり過ぎて断念」。このような家庭への援助は。

A 子育て支援課長 埼玉県「母子及び父子並びに寡婦福祉資金貸与制度」などの活用ができます。

Q 定員オーバーなどが原因で入学した小学校の学童に入れず、他校の学童に入れられた。これでよいのか。

A 学校教育課長 「申し込みがなかったこと」「定員がいっぱいだったこと」

とで、やむを得ずそうになりました。条件が整い次第、即刻善処します。

とりえず小学生給食費・高校 1年生までの医療費無料化

Q このための予算はどのくらい必要とするのか。国への要望は。

A 学校教育課長 予算化するには、小学生給食費年間約5200万円、高校1年生までの医療費387万円が必要です。高校生医療費の要望は国に出しています。

観光事業の開発

Q 駅前のロータリーの電柱が寂れていて、目立つ看板をつけたらどうか。にぎわい創出課長 今後、より効果的に利用できるよう検討します。



ここにつけよう
小川町来訪者がにつこりする看板を。

「企業は人なり」
ならぬ「町も人
なり」だよ。



あさはらのひろ
笠原規弘が問う

「人が輝くまち」 の実現を

Q 第5次総合振興計画が策定され、基本理念を町民総参加と地域コミュニティによる協働と示された。行政区・自治会の活動状況は。

A 政策推進課長ほか 子ども会、老人会、体育祭、河川清掃等多くの行政区に参加・協力いただいています。ふれあい・いきいきサロン事業には35地区、4607人の参加があります。今後も区長との情報交換をし、コミュニティ活動の推進に有効な事業について話し合っていきます。

Q 行政区の編成を願う地区もあるようだが。

A 政策推進課長 人材不足により、コミュニティ活動の形成や運営が難しい地区もあるようです。区長会へ持ちかけていきます。

Q 防犯・交通安全の観点から考えたとき、この地区の役割とは。

A 政策推進課長ほか 多くの地区・ボランティア団体の方々が、子どもの交通安全を見守っています。性質上強制するものではありませんが、善意の方が多く感謝しています。「こどもあんしん110番の家」は犯罪の抑止力もあり、さらに充実を図るため、協力宅には「役割の徹底を、子どもたちには「困ったときに駆け込むよ」」指導していきます。



地域の協力で行なう河川清掃。

庭にオオムラサキが
飛んでくるところ。



(K・Aちゃん・10歳)

仙元山の滑り台と
展望台。



(S・Aちゃん・7歳)

腰越切り通し橋から笠
山へ向かう道の槻川の
辺の彼岸花の群落。



(S・Tさん・56歳)

飯田神社の石段160
段を登り切って境内
に着いたとき。



(Y・Kさん・70歳)

Mini Column

オガワマチのこと
ギカイのこと
一緒に見よう、考えよう
「小川のどこが好き？」

解説 縮災²

被害を減らすと同時に、復旧までの時間を短くすることで、社会に及ぼす影響を最小限にとどめること。



小川町の歴史・文化は、私たちのアモーレです。

とくち まさひろ
戸口 勝が問う

歴史を背景とする戦略を

Q 町史編さん事業により、「小川町の歴史」を刊行したが、先人の偉業や業績を記した「人物誌」が発刊されずに終了となった。今後の計画は。

A 生涯学習課長 当面考えていませんが、意義やあり方について、町民各層の意見をいただきたいと考えます。

Q 交通の要衝として、あふれんばかりの人々にぎわった小川町。そんな我が町に名物や美味いものがないはずがない。食文化・郷土食の研究や発掘を。

A 生涯学習課長 郷土の活性化という点から必要であると考えます。

Q 歴史の背景を郷土の誇りの醸成に、そして教育・経済・観光・まちづくりの戦略の柱にしては。

A 政策推進課長 地方創生につながる重要な要素であり、参考となる助言と受けとめています。

外国人旅行者の誘致政策

Q 町の取り組みと、国・県に対する働きかけは。

A にぎわい創出課長 昨年、台湾の台南市へ細川紙の普及宣伝活動に行き、今後の物産交流を研究しています。また、国や県が進める協議会に参加し、機会を逃さないよう取り組みます。



町内外より高い評価を受ける「小川町の歴史」。



混雑を逆手に取り、当町への集客はシャトルバスか。

いぐちりょういち
井口 亮一が問う

さらなる地域経済の活性化を

Q 町長は3月議会での所信表明に当たり、「国の施策に注視し当面する諸情勢を踏まえて、経営資源や地域資源を最大限に有効活用しながら「小川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」で、基本目標とした「四つの柱」を基軸にまちづくりを展開していく」と話された。

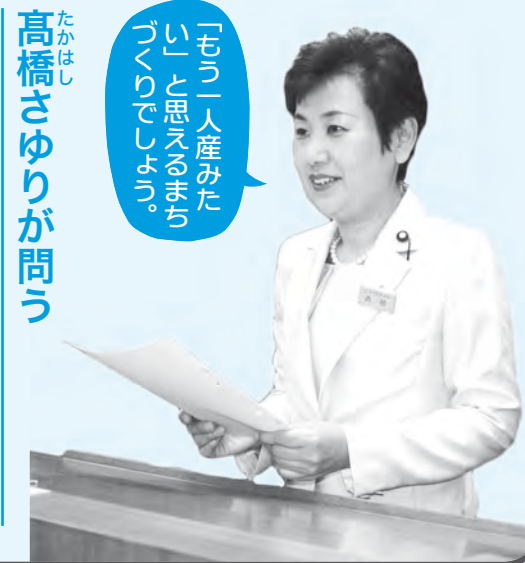
そこで地域経済の活性化につながる中長期的な課題について、深谷市が進めている「花園インターチェンジ拠点整備」は、当町にも少なからず影響が及ぶと考えられるが、研究を進めているのか。

A にぎわい創出課長 当町としても、隣接する自治体として何らかの取り組みができないか、研究を始めるべきと考えています。具体的な集客や問題点の研究は今後の課題ですが、少なくとも雇用の拡大や観光への影響はいい意味で期待できるものと思われれます。

また、ほかのアウトレットモールの例にも見られるように、高速道路を利用する集客が多いため、花園インターチェンジ一つ手前の嵐山小川インターチェンジの混雑も予測されます。当町駅前を起点としたシャトルバス等の取り組みも研究する余地はあるものと考えており、今後も研究を進めていきます。



にぎわい創出にシャトルバスの活用は。



「もう一人産みたい」と思えるまちづくりでしょう。

たかはし
高橋 さゆりが問う

町独自の子育て支援を

Q 国では不妊治療の助成金が、初回15万円から30万円に拡充された。また、新たに男性不妊治療も15万円が助成される。当町独自の支援は。

A 健康福祉課長 この制度により、初回治療費約100%がカバーできることで、町単独の補助の予定はありません。男性不妊治療については、治療内容により10万円から40万円程度かかると言われており、今後研究・検討していきます。

Q 妊婦健診で多胎妊婦（双子や三つ子など）の健診助成の拡充は。

A 健康福祉課長 多胎妊婦の場合でも、通常の14回の助成券で対応できると推測されており、拡充は考えていません。

Q 生まれて間もない赤ちゃんの「新生児聴覚検査」³ に対しての助成は。

A 健康福祉課長 現在、公的補助を行なっている自治体は非常に限定的です。埼玉県では公費でこの検査を実施している自治体はなく、すべて自費扱いとなっています。助成については、今後国や県、近隣市町村等の動向を注視していきたいと考えています。

その他の質問

・学校教育（子ども議会の成果とスマートフォン）の取り組み

・住民サービスの向上は

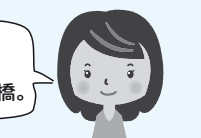


生まれてほやほやの新生児。

解説 新生児聴覚検査³

正式には「新生児聴覚スクリーニング」と呼ばれ、耳が正常に聞こえているかを調べるための検査。難聴の早期発見に有効で、新生児の段階で受けることが推奨されている。

七夕の花火がすごい迫力で見える中央陸橋。



(K・Kさん・55歳)

野菜が新鮮でおいしい。



(H・Tさん・65歳)

和紙マラソンで受ける沿道からの大声援。



(N・Tさん・67歳)

子どもと遊べる栃本親水公園。



(Y・Tさん・30歳代)

Mini Column

オガワマチのこと
ギカイのこと
一緒に見よう、考えよう
「小川のどこが好き？」

商都として栄えた
小川町の街並みも
観光資源です。

田中照子が問う

観光のまちづくりで定住促進を

Q 観光客誘導を目的に日本遺産への申請、小川町景観計画の作成、また、このようなことに関係する取り組みは。

A 都市政策課長 景観の取り組みとしては、県が進めている「歴史の道広域景観形成プロジェクト4」に、景観モデル地区として応募しており、選定・公表は7月です。

Q 移住サポートセンターが開設された。今後の展開と2年後の委託事業終了後の取り組みは。

A にぎわい創出課長 今年度は、センターの周知と状況把握に努め、委託終了後は実績確認・改善点などを整理し、事業展開についての検討を行ないます。

さらなる子育て支援の充実を

Q 「乳児家庭全戸訪問事業」の平成27年度の実績と支援内容は。

A 健康福祉課長 訪問件数は151件。体重測定・発育発達の確認のほか、うつ病質問票を用いたアンケート・保健事業の説明・子育て支援センターの説明等を行なっています。

Q 事業計画にある「他の子育て支援関連サービスとの複合化を検討」とは、子育て支援課長 日本版「ネウボラ6」の方向性です。



ママパパ教室の学習を活かして、育児に奮闘。

全国の創生がスタート、勝負はこれからだ。

山口勝士が問う

創生に向けた町の魅力発信は

Q 各市町村との競争の中で、にぎわい創出や戦略の基本は「大都市からわずかな時間で訪問、手ごろな観光体験・自然体験」と考える。今後の展開は。

A 政策推進課長 伝統工芸会館で手すき体験をした方の数は、ユネスコ登録の平成26年度と比べて、平成27年度1万7346人と約4500人増加しています
①8つのハイキングルート ②町中エリア散策ルートの新設 ③「輪行5」など、目的に沿ったサービスやおもてなし ④「米づくりから酒造りを楽しむ会」の充実

⑤花情報の町ホームページでの発信など、町観光協会と連携して、町の活性化・観光の充実に努めていきます。

住民参加の仕組みづくりを

Q 住民とつくる町、その具体的な制度、システムの構築として、愛知県新城市の取り組みは。

A 政策推進課長 提案の「地域住民が自分たちで企画立案した意見を直接行政に反映させる取り組み」については、大変興味深いものと考えます。一方、行政が主導的な立場をとるのではなく、地域住民みずから自分たちの問題に対して協議し解決するシステムについては、重要な視点であることは間違いありません。今後住民の方々の声に耳を傾けていきます。



新しくつくられていく多くの町の計画どう展開するの。

変化を求めない者に進歩なし。恐れず進もう。

島崎隆夫が問う

ふるさとを想う気持ちの醸成を

Q ①町の花の変更を考えたことは。また、複数指定の可能性は。町発祥の孔雀草や和紙に関係深いトロロアオイの花を指定しては ②トロロアオイを使つて健康を意識した新郷土料理を考えては。

A 政策推進課長 ①変更を考えたことはありません。複数指定は可能だと考えます。今後、機会を考えて検討していきます ②商工会や農協等の意見を聞き、考えてみたいと思います。

Q ①成人式は新成人の代表が企画を決めている。非常によいことである。



ご成人、おめでとう。

同時に、町が記念樹を植えて祝い、木の成長を広報・ホームページで発信する。また10年ごとに「記念樹を見る会」を開くことで、町を見直す機会をつくっては ②槻川沿いの遊歩道の完成は、とてもよいことである。兜川や市野川の整備も県へ要望し、同時に町が成人式記念で植樹しては ③ため池の保全と親水空間の創出、並びに谷津などの不耕作地解消に向けた対策として、記念樹事業やトロロアオイの栽培を町全体で取り組んでは。

A 総務課長ほか ①実行委員会に提案します。また、観賞会については研究していきます ②河川流域住民の状況を確認し、要望等をしていきたいと考えます ③農業・農村を守るため、国の制度も活用し豊かな地域づくりを目指します。

Mini Column

オガワマチのこと
ギカイのこと
一緒に見よう、考えよう
「小川のどこが好き？」

解説 ネウボラ 6

北欧フィンランドで生まれた制度。妊娠から子どもが就学するまで、子育てのさまざまな支援を一つの窓口で提供すること。

解説 輪行 5

自転車を専用の袋に入れて、公共交通機関（鉄道・船・飛行機など）を利用して移動すること。

解説 歴史の道広域景観形成プロジェクト 4

旧街道・旧宿場町・城下町などの歴史的な資源を発掘し、保全・活用する県の計画。

桜の時期に必ず行く忠霊塔。



(T・Tさん・60歳代)

エネルギーも
地産地消の
時代ですよ。

かねこ しのぶ
金子美登が問う

町のエネルギー 自給を

Q 町における再生可能なエネルギーの
取り組みについて、次の5点を確認
する。

- ① 生ごみ資源の活用は。
- ② 廃食用油の回収状況は。
- ③ 太陽光発電及び非常用蓄電池の設置状
況は。
- ④ 廃食用油による非常用発電機の活用は。
- ⑤ 森林資源活用による電力自給への町の
考え方は。

A 環境農林課長 ①実証実験は開始後
15年、新プラントは10年経過し、今



廃食用油活用用の防音型インバータ発電機
（7キロワット）。

年は新施設のデータを整理し検証します。
② 公民館等7カ所で平成24年から始まっ
た廃食用油の回収は、25年度は2291
リットルで、業者の引き取り単価1リット
ル当たり5円、供給単価130円、配送料
は別途です。バイオディーゼル燃料⁷の利
用は給食センター配送車1台に加え、10人
乗りの庁用車両1台を拡大利用しています。
③ 太陽光発電及び非常用蓄電池は、役場
庁舎ほか4カ所に設置。いずれも順調に稼
働しており、余剰電力の一部は購入電力量
を抑制しています。
④ 今後は車両燃料のみに利用しています。
⑤ 昨今話題のCLT（直交集成板）も森
林組合等と連携した活用を図ります。また
木質バイオマス発電も地域の林業振興に寄
与するものと認識しています。



議会はこの活動も

議場を飛び出し、西へ東へ “行動する小川町議会”

好評でした！ ^{とうろう} 和紙を使った灯籠づくり



紅葉まつり

平成27年11月28日

昨秋、開催された紅葉まつり。議会もまつりを盛り上げるべく、小川和紙を使用したミニ灯籠づくりに挑戦するブースを設営し、ご好評の声をいただきました。2000人を超える来場者の後押しもあり、今秋11月19日に第2回の開催が決定したとのこと。もちろん議会も参加します！
内容はどうぞご期待。ぜひ、栃本親水公園へご来場ください。

伝統のまつりで小川和紙の魅力を大いに発信

寄居北條まつり

平成28年5月8日

今年も東秩父村議会の皆さんとともに「細川紙甲冑隊」^{かつちゅうたい}の名で参加してきました。市街地を闊歩する武者隊の英姿や、玉淀河原で繰り広げられる合戦の様子は、戦国絵巻さながら。また、飲食・物産会場では、にぎわい創出課職員の協力で、和紙の折染め体験コーナーを設営いただきました。用意した体験キットは、終了時刻を待たずして完売とのことでした。第55回を数えた歴史と伝統あるまつりで、細川紙をはじめとした小川和紙の魅力を大いに発信できました。



「今度、息子たちが戻ってくるのよ」「二世帯住宅を建てることになったのよ」

最近、私が聞いた最もうやましい話です。しかし、別の友人からは、「戻って来てほしいけど言えない。働く場所がないしねえ」とか、「でも、八和田は結構若い夫婦が戻って来ているんだよ」と、聞くこともあります。

成長した子どもが家を継ぐ。当たり前だと思っていたことが、こんなにもすばらしく、実は、こんなにも難しいことだったとは……。我が子が、ずっと住みたいと思える魅力的な町を。また、ここで子育てをしたいと思える町、子どもたちの声がたくさん聞こえる町であってほしい。

少子化、核家族化がもたらしているものは何だろう。私は、大家族、にぎやかな家庭が大好きです。孫たちと遊びながら、大人数で暮らすことが、今の私の夢です。



私の夢

高橋修子さん（高見）
Nobuko Takahashi



感謝して
います

鈴木理枝さん（下里二）
Rie Suzuki

私は、3人の子どもを育てている母親です。子どもたちは、それぞれ小中学校に通っています。パパだけでなく私も仕事を抱えているので、朝から晩まで家の中はバタバタ。家事に育児に追われ、あっという間に1日が過ぎていきます。

小川町には、私たちの子育て世代に対し、保育園やファミリーサポートセンター、学童保育等さまざまな助成をいただいています。世代特有の相談を受け入れていただき、とても助かっています。

職場では、急な早退や欠勤にも「子育てを第一に」と、皆さんが温かい言葉をかけてくれます。地域の方には、登下校時の安全を見守っていただいています。

子どもたちが日々笑顔で楽しく学校へ通えるのは、「多くの方々のさまざまなサポートがあつてこそ」と、感謝している毎日です。

わたしの
ヒトコト

解説 バイオディーゼル燃料⁷

菜種油やひまわり油などの植物由来の油や、てんぷら油などの廃食用油からもつくられるディーゼルエンジン用の燃料。BDFと略される。近年、CO₂削減の手段として注目されている。



議員が町の声聞き、つないでいくという企画「議員の聞く × つなぐ」。
第1回は5月28日（土）、東中の体育祭でお話を聞いてきました。

議会だよりを読んだことがありますか？

はい - 18人

いいえ - 0人

議会だよりは、18人全員が「読んだことがある」とのことでした。編集委員一同、これを励みにますます頑張ります。



この際 言わせて！

- ・地域との連携を大切にしたい。
- ・学校環境は自然の中でいいが、全体を見ると統廃合、再編成などを考える時期かな。
- ・学校予算を潤沢につけてほしい。
- ・国際化に向けて語学力の対応を。
- ・高校卒業まで医療費の無料を実施してほしい。
- ・熱心でよい。
- ・土曜学校の開催で、勉強にもっと時間を。
- ・各校PTA活動を生徒の教育環境のためにと頑張っているが、保護者に理解されていない気がする。よりたくさんの親が理解を示し、ともに教育環境の向上を図れないか。
- ・全国、関東大会への出場は、小川町代表としてのことなので、予算化を。

(原文のまま掲載しています)

ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



傍聴から はじめよう!!

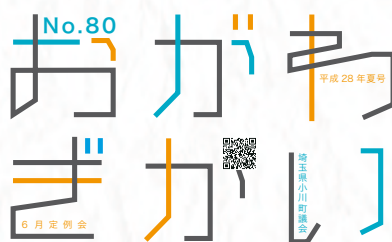
どなたでも傍聴できます（事前連絡は不要です）
役場3階にお越しください

次回定例会は

9月2日(金)~
開会10時です



傍聴席の
定員は
40名



No.80

小川町議会だより
平成28年6月定例会夏号

発行責任者：小川町議会議長 根岸成美

編集：議会広報発行特別委員会

委員長 高瀬 勉 副委員長 田中照子

委員 戸口 勝・笠原 武・島崎隆夫・笠原規弘

編集後記

今年もあふれる人々にぎわった七夕まつりが開催され、この日を目当てにたくさんの親戚、兄弟、友達が小川町に足を運びお祭りを楽しんだことだと思います。七夕飾りを準備する商店・団体等は、この2日間のために何カ月も前から準備をして、当日を迎えます。「なんでそんなに頑張るの?」「だって、楽しみにしている人がいるし、七夕まつりが大好きだから……」私たちが待っている人がいると思って、全力で発行に向けて取り組みます。(戸口 勝)

